
秋恋詩

都築景斗

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

秋恋詩

【Nコード】

N8023C

【作者名】

都築景斗

【あらすじ】

まだ恋人未満友人以上の少年と少女が秋の公園で……。やや温めのお話

（前書き）

詩とも小説とも違うような短文です。

一人称で書くのは初めてで文がおかしかったりしたらスイマセン…。

サクサクと足元で落ち葉が鳴る。

見上げれば、もう残り少ない葉をぶら下げた落葉樹が枝を広げている。

夕暮れの空に赤と黄の葉が風に揺れている。

サクサク…

踏み締める落ち葉の音に何故か笑いが浮かんでくる。

秋だなあ、と僕は空を見上げたまま呟く。あくまでも独り言のように。

そうねえ、と君が同じように空を見上げて返してくる。

学校の帰り道、近くの児童公園で寄り道している。

何をするでもなく、ただ二人で並んで公園を一周しているだけ。

けれど、今の僕にはそれだけで充分満足できる。

僕はねえ秋が好きなんだよ、ぼつりと呟く。

なんで、と君が聞く。

…秋はね、眠りに着くまでの準備期間だから静かで切ないと思うから、だよ。

はらはらと落ちる葉を手で受け止め、僕は語る。

春の桜の散る様の方が綺麗なのに心惹かれるのに、落ち葉が散る様は…こう、切なさを掻き立ててね、好きなんだよ。あと、変かもしれないけど秋になるとポカンと胸に喪失感があってなんかホッとするんだ。

君は何も言わずに、ただ俯く。

何か、他に言わなければと思うのに口下手な僕の口から言葉は出てこない。

サクサク……

二人で並んで落ち葉の上を歩き続ける。

私、秋は嫌い。

君が不意にそう口にした。顔は俯いたままで。

秋はなんか悲しい気持ちになるから嫌いな、と突き放すように。ごめん、と考えるよりも早く口からその言葉がでてきた。

君は首を振っていいの、と言う。貴方が謝る必要はない、と。

顔を上げる君とは逆に今度は僕が俯く。

それに、と君が明るい声で付け加える。

それに、私…貴方のおかげで少し秋が好きになれたから…。

顔を上げて君を見ると笑っていた。楽しそうに秋の木々を見上げて笑っていた。

それはよかった、と僕が返す。

君は照れ臭そうにはにかむと、僕の手を自分の手とつながせた。

暖かい感触に僕が驚く。

冷たい風が吹き、落ち葉が流れる。

寒くなってきたね、もう帰ろうか、君が首に巻いたマフラーを押さえて言う。

そうだね、帰ろうか、遠慮がちに手を握り返しながら僕が返事をする。

サクサク…

落ち葉を踏み締め、僕たちは公園を出た。

一歩近づいた二人の距離に嬉しくて僕は願う。出来るだけ長く君と手を繋いでいたい、と。

夕暮れに赤く染まった町に、手を繋いだ二人の影がくつきりと伸びていた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8023c/>

秋恋詩

2010年10月27日14時01分発行